

1 学校教育目標 「大磨 智誠」 ～知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指す～ ↓ 「夢に向かって絆・全力・挑戦」 ～夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成～	2 本年度の重点目標 ○夢に向かって(見通す力) 夢や目標に向かい、見通しをもって行動できる子 ①絆(関わる力)【徳】 お互いに認め合い、支え合い、人との絆を深める子 ②全力(活用する力)【知】 自ら考え、主体的に学習に取り組み、問題を解決しようと全力を尽くす子 ③挑戦(挑む力)【体】 いろいろなことに挑戦しようとする強い精神力と体力をもつ子
--	---

現時点での達成度

A: ほぼ達成できている
 B: 概ね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 絆(関わる力)【徳】 お互いに認め合い、支え合い、人との絆を深める子

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	①人権・同和教育の視点に立った支持的風土づくりの推進 ②教育相談等を通じた信頼関係の構築	①児童生徒の実態に応じ、自尊感情や人権意識を高める授業実践等を計画的に行う。 ②教育相談体制を確立して、児童生徒との信頼関係を構築し、全職員で共通理解をして、指導・支援にあたる。	①自尊感情の育成や人権意識の向上、仲間づくりに関わる実践を、児童生徒の実態に合わせて、年1回以上行う。 ②小中合同で、児童生徒について共通理解する場を、年3回設定する。また、毎週の職員連絡会等で、児童生徒の情報を共有し、職員間で共通理解を図る。	心の教育部	A	①後半も継続して心のアンケートを毎月実施し、定期教育相談を行うなどして児童生徒の実態把握に努め、児童相互の信頼関係や学級の団結を高めた。 ②不登校傾向や要支援児童について、SC・SSW・小中や専門機関との連携を図り、情報の共有ができています。	①不登校傾向の児童・生徒については、支援会議を通して、情報を共有し、具体的な支援を検討、実施していく。 ②「困ったことや悩みがあるときに相談できる人が校内にいるか」という問いに対し、「そうではない」と回答した児童生徒が25人いた。このことについては、日ごろから把握しておく必要があると考えられる。場合によっては話し掛けたり、面談を行っていくよう努める。
教育活動	●いじめ問題への対応	①児童生徒の実態把握といじめの早期発見 ②情報モラル教育の推進	①月1回の心のアンケート等を行い、児童生徒の実態把握と職員間の共通理解を図る。 ②児童生徒の情報モラル意識を高める。	①児童生徒の実態に応じ、随時、ケース会議を行い、職員会議等でも伝える場をもち、関係職員を中心に、共通理解を図る。 ②継続的に情報モラル教室を実施し、保護者への啓発活動も行う。	生 徒 の 指 導 部	B	① 月1回の心のアンケート等から児童生徒の変化をみたり、児童生徒の指導を職員間で共通理解を図った。「いじめや差別をしないようにしている」と考えている児童生徒が9割以上であった。 ②外部機関による講話を実施することができた。しかし、保護者の参加は少なく、児童生徒間ではSNS等の問題事案が起こっている。情報モラル意識は高まりつつあるが、今後も指導を続ける必要がある。	①学校での人権教育推進についても9割以上の保護者が認めているが、児童生徒と保護者との意識の温度差がないような環境づくりを行うために、日ごろから担任の方で児童生徒の学校生活について伝えておくことは必要である。 ②児童生徒保護者の情報モラル意識を高めるため継続的に指導、啓発を行う。
教育活動	○生徒指導の充実	①7つの行動目標の徹底	①いつでも、どこでも、誰にでも、挨拶・返事を行うことができる児童生徒を90%以上にする。 ②無言清掃を行うことができる児童生徒を90%以上にする。 ③ルールを守って廊下歩行ができる児童生徒を90%以上にする。	①登下校時や授業時間など、全ての生活や学習場面で、挨拶・返事ができるよう、常に働き掛け、継続した指導を行う。 ②無言清掃への意識を高めるため、指導や指示も無言で行う。また、美化コンクールの取組を継続する。 ③静かに並んで廊下歩行をすることを習慣化させるため、常に言葉掛けを行い、指導を継続する。	生 徒 指 導 部	B	①挨拶・返事に対する児童生徒の意識が高まっている。意識調査では、児童と教職員の90%以上が肯定的な回答をしている。 ②無言清掃においては、無言での取組に課題が残っている。場所ごとの掃除への取り組み方が定着していないため、無言の徹底が難しい。 ③廊下歩行を意識している児童生徒は80%、小中ともに走っている姿を見掛ける。	②掃除の手本動画を活用し、掃除の行い方を統一する。また、掃除場所の担当を月交代にして無言清掃の定着を図っていく。年度初めに全職員で共通理解し、学校で一貫した清掃指導を行う。 ③廊下歩行が定着するよう、授業の終了時刻を厳守し、時間に余裕をもたせる。児童生徒に意識をもたせるため、臨場指導を行う。

② 全力(活用する力)【知】 自ら考え、主体的に学習に取り組み、問題を解決しようと全力を尽くす子

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	①自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	①キャリア教育の視点から、自己の生き方に向けさせた学習活動に取り組ませ、具体的な夢や目標をもつことができる児童生徒を90%以上にする。	①キャリア教育に関わる学習活動を見直し、分類・整理を行う。発達段階と系統性を意識し、9年間を見通した学習活動を計画する。 ②各教科等での学習活動に取り組ませる際に、学びの連続性を意識して、既習内容での振り返りを行わせるとともに、次の学習の目標につながる活動を仕組む。	教 務 部	B	①キャリア教育に関する職員研修を実施し、全学年で学習活動と基礎的・汎用的能力との関連図を作成し、これまでの学習活動をキャリア教育の視点で見直した。 ②小学部では夢シートを作成させ、教室掲示をした。夢や目標をもつことができている児童生徒は85%である。また、5学年でキャリアパスポートモデル案を作成し、試行することで次年度からの本格実施に備えた。	①キャリア教育の関連図を教室掲示し、基礎的・汎用的能力を意識した学習活動に取り組む。 ②キャリアパスポートを記入させ、その実践を通して児童・生徒が自らの特性を振り返るように努めさせる。
教育活動	●学力の向上	①基礎・基本の徹底と分かる授業の実践 ②家庭学習の習慣の定着	①各種検査等において、県平均を上回ることを目指し、児童生徒の「分かる授業」における肯定的回答率90%を目指す。 ②「うちどく」を含む家庭学習に取り組む児童生徒の割合を90%以上にする。	① 中間・期末テスト、聖テスト等においては、合格点を定め、基準に満たない児童生徒には再試験を実施し、重点的に個別指導を行う。 ② 各家庭に、家庭学習の手引きを配付し、保護者へも家庭学習への取組の協力を呼び掛ける。課題等の提出ができない児童生徒は、その日のうちに学校で取り組ませる。	教 務 部	B	①聖テストにおいては、合格点を定め、85%の生徒が達成できた。また、再試験を実施し、重点的に個別指導を行った。定期テスト前には、計画表を立てさせて学習に取組ませた。また、年2回生徒・教員のアンケートを実施し、意識調査を行った。 ②宿題の提出を徹底させ、未提出者については個別指導を行うとともに、その日のうちに提出するよう指導してきた。12月に実施したアンケートでは、小学部は87%、中学部は84%の達成率であった。	①聖テストの意義を再確認する。また、定期テストに向けた学習計画表の立て方や点検の在り方等について改善し、共通理解と指導を実施する ②家庭学習の習慣が身に付いていない児童生徒に対しては、家庭での時間管理の仕方を指導していく。また、保護者に対しても、随時、家庭学習への取組の理解と協力を呼び掛ける。

③挑戦(挑む力)【体】 いろいろなことに挑戦しようとする強い精神力と体力をもつ子

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	①保健指導の充実 ②体づくりの推進 ③望ましい食習慣づくりを目指した食育指導の推進	①保健行事や保健指導を生かし、基本的な生活習慣や健康への意識向上を図る。 ②体育的行事等を通して、健康でたくましい児童生徒の育成を図るとともに、運動環境の充実を図り、外遊びの奨励をする。 ③給食指導を徹底し、食に対するマナーや意識の向上を図るとともに、食育指導を推進し、朝食の喫食率を90%以上にする。	①生活習慣と健康に関する調査を実施し、結果をもとに、保健指導を行ったり、保護者への啓発を行ったりする。 ②ボールや長縄を配付し、外遊びへの関心を高めるとともに、遊具等の使い方や遊び方を体験させ、自ら遊ぶ習慣づくりを行う。体育大会やひじりマラソンで、達成感や満足感を味わえる競技方法や練習方法を工夫する。 ③学級活動等において、食育指導を推進し、朝食の意義や大切さについて、児童生徒だけでなく、必要に応じて、家庭に協力を呼び掛ける。給食指導を全職員で行い、食に対するマナーや意識の向上を図る。	健康・体づくり部	B	①生活習慣と健康に関する調査を実施し、児童生徒へ担任等が保健指導をしたり、保護者へお便りを発行したりした。また、健康診断結果から治療勧告を配布し、児童生徒の病気の治療や健康意識への向上に努めた。 ②用具や遊具の利用によって、外遊びが増えた。体育大会では、どの学年も同じくらいの競技に参加できるよう工夫した。「ひじりマラソン」では記録を取ったことで、達成感や満足感をもたせることができた。 ③食育月間の取組を通して、児童生徒への指導と家庭への啓発に努めた。全職員による給食指導の徹底については、今後も継続的に必要である。	①治療勧告を配布しているが、病気の治癒率はまだ低いため、今後も継続して呼び掛けていく。また、学校だけでなく、PTA等とも連携をとっていきたいと考える。 ②体育的行事後の反省を元に、協議内容の充実を図る。 ③毎日の給食を通して、食事マナーと食への意識の改善を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	今後の具体的な改善策・向上策
教育活動	○交流活動の推進	①児童生徒間の交流 ②ブロック内の交流	①生徒会と児童会の組織等の見直しを行い、共通した活動を通して、児童生徒間の交流を進める。また、交流活動を楽しんでいる児童生徒の割合を80%以上にする。 ②各ブロックの組織を意識した交流活動を進める。	①生徒会と児童会との連携を図り、挨拶運動、縦割りに交流活動、地区児童生徒会、ちよボラ等の活動を計画的に実施する。 ②定期的に、生徒集会・児童集会・ブロック集会を行い、ノーマルスピーチを実施する。平和集会・文化発表会・中体連激励会への5・6年生の参加や年1回以上のブロック行事の企画・立案・実施を行う。	交流部	B	①挨拶運動にも縦割り班を取り入れ、小中の交流活動を計画的に行うことができた。学校評価で「小中の交流ができてきている。」の回答は80%以上あったが、楽しいと感じているかどうかは分からない。 ②ブロック集会等は定期的に行うことができた。年1回以上のブロック行事は、前期ブロックはできたが(ミニ運動会)、中期、後期ブロックは時間的に難しかったので、朝のブロック集会を充実させた方がよい。	①掃除でも、縦割りに交流ができるような方法を工夫したい。学校評価の項目や具体的目標・方策の検討が必要である。 ②ブロック集会の意義や目的を見直し、ブロックに応じた方法や内容を検討していきたい。それぞれのブロックの最上学年に責任をもたせるために世話を任せてはどうかと考える。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①学級・学年経営の充実 ②衛生管理の改善、充実 ③情報の共有化	①学年間の連携を深め、児童生徒への指導の充実と業務の効率化を図る。 ②職場の美化と多忙感解消のための業務の工夫改善を行う。 ③全職員が校内LANや既存の文書、SEI-Net等を有効活用する。	①職員連絡会での情報交換や意見交流を行い、共通理解に基づいた児童生徒への共通指導や学級・学年経営を推進する。 ②職員室等の整理整頓と事務処理のタイムマネジメントを行うとともに、定時退勤日や19:30退勤の確実な実施を目指す。 ③フォルダ内の整理を行う。既存の文書の有効な活用や効率的な文書作成、各種情報の伝達や配信など、職員間の連絡・調整を効果的に進行。	教務部	B	①小学部は水曜日に、中学部は金曜日に連絡会を実施し、共通理解を図っている。教育相談部会の議事録等は、様式を作成し、管理職等に供覧している。小中間の情報共有が不十分である。 ②長期休業中の職員作業で職員室内の整理整頓はできた。定時退勤日については意識できつつあるが、19:30退勤の実施はできていない。 ③サーバー内の不要なデータは削除したが、整理はできていない。小中共に、SEI-Netのメッセージ機能等を利用した情報伝達を行っている。	①小中間での情報共有の在り方の工夫が必要である。次年度の年間行事計画に、生徒指導・教育相談連絡会の位置付けを検討する。 ②水曜日または金曜日に、管理職自ら定時退勤を実践する。 ③SEI-Netの新システムの導入に伴い、利用の仕方についての研修会を行った。日々の利用が必要になるように、メッセージ機能等の利用充実を図る。
学校運営	○開かれた学校づくり	①PTA活動の活性化 ②コミュニティスクールの充実	①学校教育への保護者や地域の関心を高め、授業参観やPTA行事等への参加率前年度比5%増を目指す。また、ノーテレビノーゲームデーの実施率90%以上を目指す。 ②学校運営協議会での情報交換や意見交流を生かし、地域とともにある学校を目指す。	①保護者への早めの文書配布等を行うとともに、事前のメール配信を行う。地域への広報活動も積極的に行う。また、学校HPを一本化し、一層の活用を図る。 ②学校運営協議会で共通理解した内容を、全職員や家庭・地域と共有するため、職員会議等で報告し、共通実践につなげる。	教務部	C	①地域への回覧用文書を早めに配布することができなかった。体育大会やファミリー学級等へは100%に近い参加が見られるが、通常の授業参観等への参加率は、昨年度より低くなっている様子も見られる。ノーテレビノーゲームの実施率は、小学部では90%に近い付いてきているが、中学部での実施は厳しい現状がある。HPは、一本化できている。 ②学校運営協議会の内容の職員への共有は、十分できていない。	①地域への文書は、1か月前を目途に配布する。保護者へのお知らせやメールも、1か月前を目途に配信する。 ②学校運営協議会の報告は、町教委がSEI-Netフォーラムに議事録を掲載していた。新システムの導入に伴い、CS担当者から教職員に周知できるよう、情報共有の在り方を検討していきたい。
学校運営	○教職員の資質向上	①校内研修及び授業研究会の充実 ②服務規律・危機管理に対する意識の高揚	①主体的な学びの視点で校内研究を推進し、指導方法の工夫・改善を行う。 ②信用失墜行為をゼロを目指す。	①主体的に学ぶ態度の育成を目指し、教師の授業力向上を図り、全員授業を通して、よりよい指導方法の工夫・改善を行う。 ②計画的な職員研修を行い、服務規律の保持や危機管理意識を高める取組を行う。	教務部	B	①校内研究の提案を受けて、全員授業の実施はできた。新探教論を含めた若手教員は、町教委主催の「スキルアップ研修会」に参加し、授業づくりについて学ぶことができた。 ②服務規律の職員研修は実施できた。「ゼロの日」は、毎回行事黒板にプレートを掲示している。学校長による「ゼロの日通信」の配布し、職員の意識を高める取組を行っている。	①県教委「授業づくりの1・2・3」、西部教育事務所「学力向上のための手引き」を、若手教員を中心に再度配布し、内容の再確認を行う。授業研究会や各種研修会において、指導助言をいただくことができるように、外部講師の招聘を行う。 ②SEI-Netに掲載されている「不祥事根絶に向けた取組事例」を参考に、服務規律の保持や危機管理意識を高める取組を行う。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・児童生徒の実態を把握し、情報共有を行った上で、学校全体として共通した指導ができつつある。いじめや不登校、問題行動等についても、小中間の連携を図り、継続した指導を行っていきたいと考える。
 ・学力の向上については、学びの土台づくりと教職員の指導力の向上が不可欠である。学びの連続性を意識して、キャリア教育を本校の教育活動の柱としていく。基礎的基本的な学習内容の確実な定着を図り、児童生徒の学ぶ意欲の向上を目指す。
 ・職員の業務の精選と効率化を図る。タイムマネジメントを意識した業務改善に取り組むことができるよう、小中の連携を強化し、職員間の協働体制を整えていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目